

解剖学実習

科目責任者 徳田 信子
学年・学期 2学年・1学期

一
学
年

I. 前 文

解剖学実習は臨床医学に直結しています。机上での学びを実習で深め、医師として必須の知識を体得してください。また、本実習は献体して下さる方があって初めて成立します。ご本人とご遺族のお気持ちを大切に、真摯に学んでください。

ディプロマ・ポリシー「医学知識 1. 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。」の学びの基礎を体得して頂きます。また、ディプロマ・ポリシー「プロフェッショナルリズム 1. 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。2. 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。」「能動的学修能力 1. 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。」を積極的に学んでください。

II. 担当教員

教 授	徳 田 信 子	解剖学
准 教 授	上 田 祐 司	解剖学
学内准教授	江 原 鮎 香	解剖学
講 師	山 口 剛	解剖学
助 教	橘 篤 導	解剖学
助 教	北 沢 祐 介	解剖学
助 教	沢 登 祥 史	解剖学
教 授	種 市 洋	整形外科学
教 授	楫 靖	放射線医学
教 授	志 水 太 郎	総合診療医学
学内准教授	山 下 真 幸	情報基盤センター
非常勤講師	高 橋 秀 雄	解剖学

III. 一般学習目標

人体の構造の全体像をとらえ、各器官の肉眼的な構造と基本的な機能を理解する。臨床的な重要性を意識しながら剖出を進め、個人差を知り多様性を認識する。また、協調性や自己問題解決能力を鍛え、献体の精神を学んで、人の心がわかる医師となることを目指す。

IV. 学修の到達目標

- 1) 人体の基本的構造を理解する。
- 2) 人体の構成要素を剖出・同定し、相互の位置関係を説明できる。
- 3) 臨床医学とのつながりを意識して学習を進める。
- 4) 組織学実習や他科目との連携学習により、器官の肉眼的構造と微細構造との関係を理解する。
- 5) 協調性やリーダーシップ、自己解決能力を身につける。
- 6) ご遺体に真摯に向き合い、献体の精神を理解し、人の心がわかる医師を目指す。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

(1:反転授業の要素を含む授業(知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2:ディスカッション, デイバート 3:グループワーク 4:実習, フィールドワーク 5:プレゼンテーション

6:その他)

(状況によって、学習する部位が変更されることがあります。)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
	4	8	金	5-6	解剖学実習オリエンテーション	全 員	4
1		11	月	3-6	実習(1-4) 体表観察, 皮下の構造物	全 員	4
2		12	火	3-6	実習(5-8) 頸部・胸部・腹部の浅層	全 員	4
3		13	水	3-6	実習(9-12) 背部, 上下肢後面	全 員	4
4		15	金	3-6	実習(13-16) 背部, 上下肢後面	全 員	4
5		18	月	3-6	実習(17-20) 背部, 上下肢後面	全 員	4
6		19	火	3-6	実習(21-24) 頸部・胸部・腹部の浅層	全 員	4
7		20	水	3-6	実習(25-28) 顔面, 頸部, 胸部, 大腿	全 員	4
8		25	月	3-6	実習(29-32) 顔面, 頸部, 腋窩, 大腿	全 員	4
9		26	火	3-6	実習(33-36) 顔面, 頸部, 腋窩, 大腿	全 員	4
10		28	木	3-6	実習(37-40) 顔面, 肩, 腋窩, 上腕, 前腕, 腹部	全 員	4
11	5	2	月	3-6	実習(41-44) 胸部内臓, 心臓外景, 肩, 腋窩	全 員	4
12		9	月	3-6	実習(45-48) 心臓, 肺, 縦隔	全 員	4
13		11	水	3-6	実習(49-52) 心臓, 肺, 上肢	全 員	4
14		18	水	3-6	実習(53-56) 縦隔, 上腕, 前腕	全 員	4
15		20	金	3-6	実習(57-60) 縦隔, 気管と食道, 前腕, 手	全 員	4
16		23	月	3-6	実習(61-64) 腹壁の筋, 腹膜, 間膜, 腹部内臓	全 員	4
17		25	水	3	実習(65) 特別講義: 脊椎外科と脊柱の機能解剖	種 市 洋	1
		25	水	4-6	実習(66-68) 腹部内臓, 腹部の神経と血管	全 員	4
18		31	火	3	実習(69) ご遺族の講話	ご 遺 族	1
		31	火	4-6	実習(70-72) 腹部内臓	全 員	4
19	6	1	水	3-6	実習(73-76) 腹部内臓, 前腕・手, 下肢	全 員	4
20		2	木	3-6	実習(77-80) 頭部, 頸部, 腹部, 下肢	全 員	4
21		6	月	3-6	実習(81-84) 頭部, 頸部, 腹部, 下肢	全 員	4

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
22	6	7	火	3-6	実習 (85-88) 頭部, 頭蓋, 頸部, 腹部, 下肢	全 員	4
23		8	水	3-6	実習 (89-92) 頭部, 腹部	全 員	4
24		10	金	3	実習 (93) 頭部	全 員	4
		10	金	4	実習 (94) 特別講義: 断層解剖学	楢 靖	1
		10	金	5-6	実習 (95-96) 断層解剖学演習 (コンピューター室A108/109教室)	楢山 靖 山下 真幸	4
25		13	月	3-6	実習 (97-100) 腎・副腎, 後腹壁, 頭部	全 員	4
26		14	火	3-6	実習 (101-104) 腎・副腎, 後腹壁, 下半身	全 員	4
27		15	水	3-6	実習 (105-108) 頭部, 骨盤, 殿部, 外陰部, 大腿	全 員	4
28		16	木	1-6	実習 (109-114) 頭部, 骨盤, 会陰	全 員	4
		20	月	1-2	中間試験 (筆記)	全 員	1
29		21	火	1-5	実習 (115-119) 頭部, 骨盤	全 員	4
30		22	水	1-5	実習 (120-124) 頭部	全 員	4
31		24	金	1-5	実習 (125-129) 眼, 耳, 関節	全 員	4
32		27	月	1-5	実習 (130-134) 耳, 骨盤, 関節	全 員	4
33		28	火	1-5	実習 (135-139) 眼, 耳, 関節	全 員	4
34		29	水	1-7	納棺および納棺式	全 員	
	9	2	金	4-5	感謝状伝達式リハーサル		
		3	土		2022年度 文部科学大臣感謝状伝達式並びに献体登録者の集い 終日 (終了時間未定)		
	10	21	金		解剖慰霊祭りリハーサル		
		22	土		2022年度 解剖慰霊祭 終日 (終了時間未定)		

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

定期試験 (90%), ミニテストや提出物など (10%) により, 総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り, ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

- 1) 教科書: グレイ解剖学, エルゼビア
- 2) 教科書: プロメテウス解剖学 解剖学総論/運動器系, 医学書院
- 3) 図譜: プロメテウス解剖学 コア アトラス, 医学書院
- 4) 図譜: ネットター解剖学アトラス, 南江堂

- 5) 実習書：解剖実習の手びき，南山堂
 6) 実習書：解剖学実習 カラーテキスト，医学書院

VIII. 質問への対応方法

随時，教員が対応します。早めに疑問点を解決して実習に臨んでください。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について，間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

予習すべき内容をe-learningや動画などの形式で示すので，必ず取り組んでください。この内容に関するミニテストを行い，結果は総合成績に反映させます。また，予習用に示されたe-learningや動画については，講義後の復習用にも用いてください。予習・復習教材と，1年時からの講義で配布されたハンドアウトをもとに，要点を説明できるようにしておくことが大切です。（各所要時間については，シラバス別冊を参照）

XII. コアカリ記号・番号

- A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理
- A-2 医学知識と問題対応能力 A-2-1) 課題探求・解決能力
- D-1 血液・造血器・リンパ系 D-1-1) 構造と機能
- D-2 神経系 D-2-1) 構造と機能
- D-3 皮膚系 D-3-1) 構造と機能
- D-4 運動器（筋骨格）系 D-4-1) 構造と機能
- D-5 循環器系 D-5-1) 構造と機能
- D-6 呼吸器系 D-6-1) 構造と機能
- D-7 消化器系 D-7-1) 構造と機能
- D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む） D-8-1) 構造と機能
- D-9 生殖機能 D-9-1) 構造と機能
- D-11 乳房 D-11-1) 構造と機能
- D-12 内分泌・栄養・代謝系 D-12-1) 構造と機能
- D-13 眼・視覚系 D-13-1) 構造と機能
- D-14 耳鼻・咽喉・口腔系 D-14-1) 構造と機能